

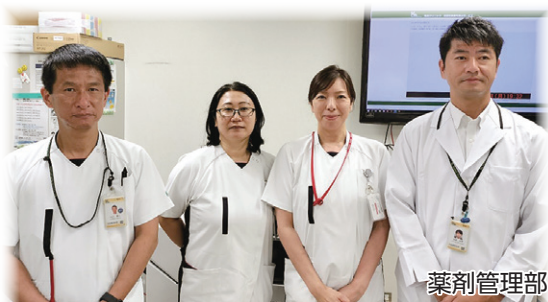
K
A
M
E
D
A

Department of
Pharmacy

Annual report
2022-2024

目次

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| ① 病院概要 …………… 3 | ⑨ 教育・研修 …………… 12 |
| ② 薬剤部(治験管理センター含む)人員数 | ⑩ 試験・研究 …………… 14 |
| ③ 薬剤部業務実績 …………… 4 | ⑪ 薬剤師レジデント制度(TTSP) |
| ④ 薬剤部のミッション | ⑫ 薬剤部イベント …………… 16 |
| ⑤ 2024年度薬剤部目標 | ⑬ 海外発表 |
| ⑥ ご挨拶 …………… 5 | ⑭ 国内発表 |
| ⑦ 部内紹介 …………… 6 | ⑮ 業績 …………… 17 |
| ⑧ チーム医療 …………… 9 | ⑯ 専門・資格 (2026年2月20日現在)… 27 |



*本誌掲載写真は、撮影のため一時的にマスクを外しています

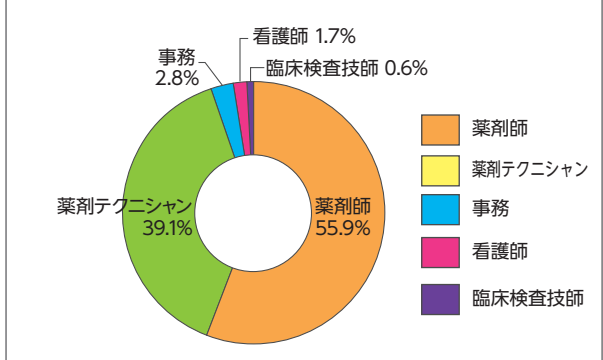
① 病院概要

2026.2.1 現在	
病床数	一般 865床 (うち開放病床 30床) 精神 42床
診療科数	35科

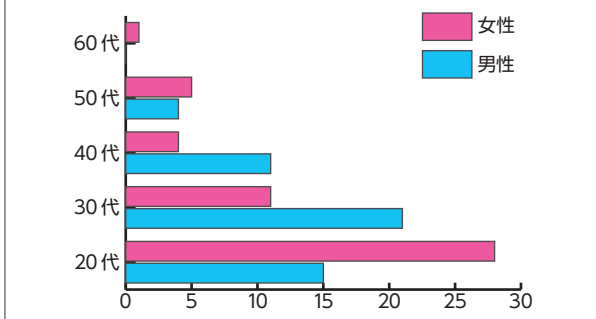
② 薬剤部(治験管理センター含む)人員数

2026.2.1 現在	
薬剤師	100名
薬剤テクニシャン	70名
事務	5名
看護師	3名
臨床検査技師	1名
	179名

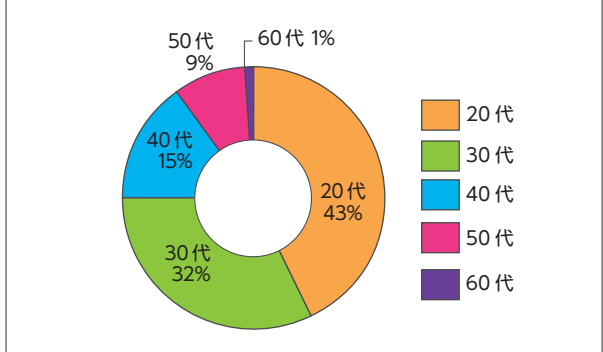
職種別割合 (2026.2.1 現在)



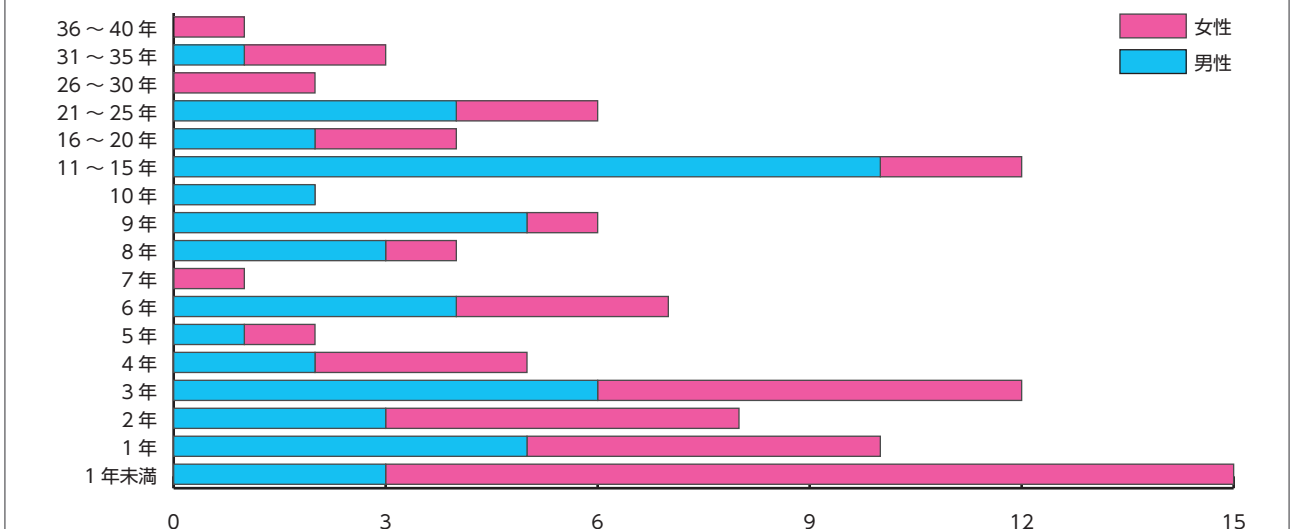
年代別薬剤師数(男性51名、女性49名 計100名) (2026.2.1 現在)



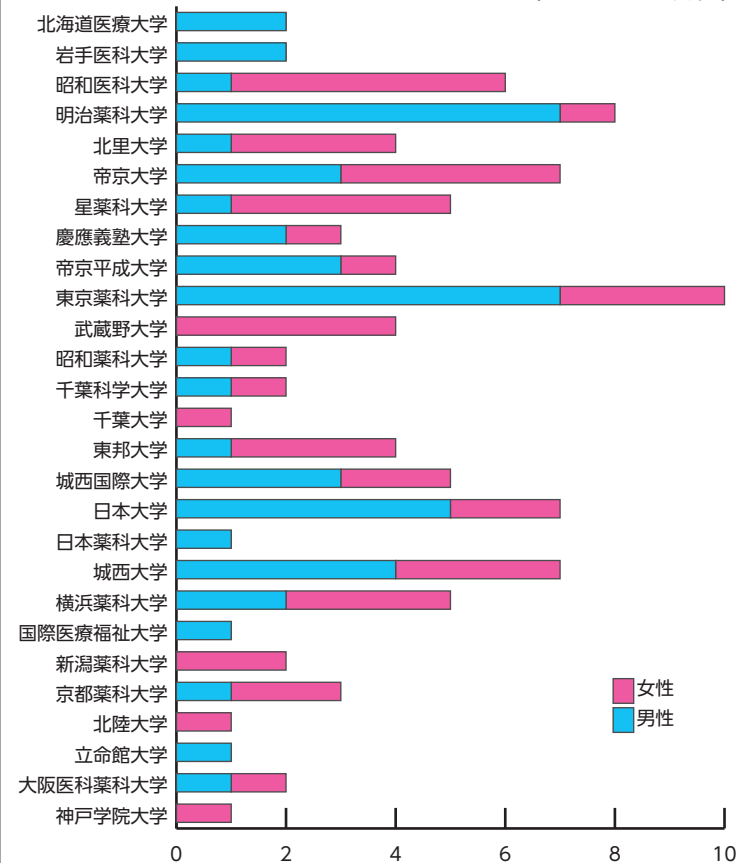
年代別薬剤師割合 (2026.2.1 現在)



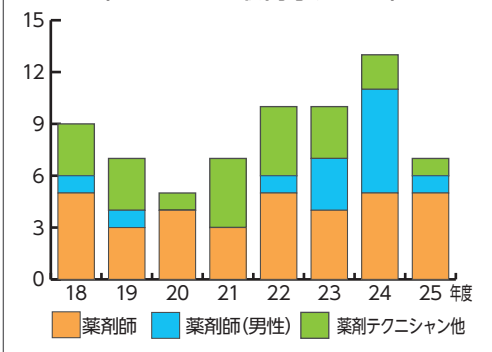
勤続年数別薬剤師数 (男性 51名、女性 49名 計100名) (2026.2.1 現在)



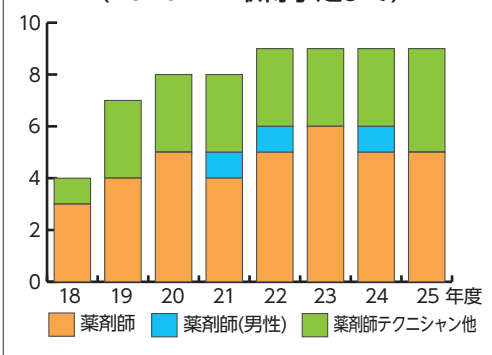
出身大学別薬剤師数 (男性 51 名、女性 49 名 計 100 名)
(2026.2.1 現在)



産前産後育児休暇 (パパ育休含む)取得状況
(2026.2.1 取得予定まで)



育児短時間勤務等 取得状況
(2026.2.1 取得予定まで)



③ 薬剤部業務実績

2025.1 ~ 2025.12

外来処方せん枚数	287,458 枚	炎症免疫外来件数	約 5,000 件
入院処方せん枚数	172,303 枚	術前外来件数	4,754 件
入院注射処方せん枚数	319,886 枚	周術期薬剤管理加算件数	6,881 件
TPN 調製本数	3,100 本	服薬フォローアップ (CL)	約 250 件
抗がん剤混合調製本数	22,824 本	服薬フォローアップ (C棟)	約 24 件
薬剤管理指導件数	9,310 件	退院時薬剤情報管理指導料	927 件
麻薬管理指導件数	272 件	退院時薬剤情報連携加算	27 件

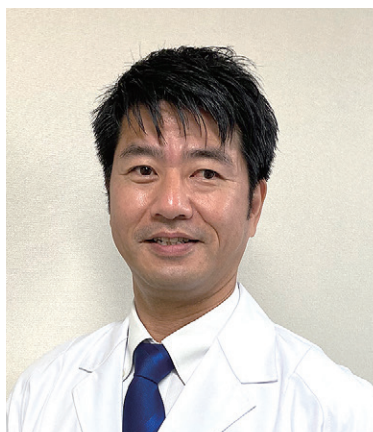
④ 薬剤部のミッション

我々は、全ての人々に安心、安全かつ最高水準の医療を提供するためにチーム医療における全ての薬物療法に責任を持つことを使命とする

⑤ 2024年度薬剤部目標

1. 医療費適正計画を推進する。
2. がん患者さまに対するケア、サービスを向上させる。
3. 他職種横断的連携を図り、病棟業務を充実させる。
4. 患者さま中心の切れ目のない薬物療法を展開する。
5. 医療DXを先行し地域医療における医薬品情報の共有と活用を構築する。

6 ご挨拶



本職を拝命し満11年が経過しました。2015年は「対話と踏襲」、2016年は「課題把握と可視化」、2017年は「イノベーション」、2018年は「定着化」、2019年は「環境整備」、2020年は「助け合い」、2021年は「1人1人の薬剤師が1日に1回は患者さまに接することができる職場環境」、2022年は「無理無駄ムラをなくした持続可能な業務へのシフト」、2023年は「ICTを使った業務の推進から医療介護DXの推進への展開」、2024年は「場所を選ばない患者さまへの薬物治療の提供」、2025年は「データサイエンスと費用対効果からの業務の再検証」をキーワードに確実な実践と効率化の推進に取り組んできました。

教育の視点では、学会発表や論文投稿、各認定薬剤師取得へのチャレンジも新規報告数、取得者数共に増え、対面とWEBミーティング双方を利活用し、継続することができました。卒前薬学教育についても、各薬科大学へのOSCE評価者・講師の積極的な派遣は継続のみならず共同研究についても複数成果を出すことができました。亀田メディカルセンターの特徴でもある国際事業に薬剤部門も参加しながら、国際交流の面でも交流国が定着しつつあります。

運営の視点では、デジタルツールを活用し、RPAやPower Automateを実装し、薬剤師のオンライン服薬指導や服薬フォローアップの展開に加え処方薬再供給など他部門とのやりとりも拡張できました。

顧客の視点では、人員不足の中、可能な限り術前外来・手術室・術後管理維持、薬剤業務向上加算のもと出向により地域薬剤師全体の質向上に貢献できました。

財務の視点では、支出抑制としてはDPC制度における後続品使用体制加算、後続品の円滑な導入によりレカネマブや再生医療等製品の導入による医薬購入費の高騰を抑え、後発医薬品係数、7剤通減率の抑制、適正使用ワーキンググループによる処方指針の拡充とポリファーマシー対策の着実な成果をあげることができました。2024年までの業績集としてまとめ、2025年は「新体制における相互理解と2040年に向けた持続可能な薬物治療の実践」をスローガンに掲げ、亀田メディカルセンター薬剤部は、メディカルセンターの理念に基づいて、すべての患者さまのすべての薬に関して責任を持ち、安心、安全かつ最高水準の医療に貢献することを使命として邁進してまいります。

医療法人鉄蕉会 医療管理本部 薬剤管理部 部長
亀田総合病院 薬剤部 部長
舟越亮寛

7 部内紹介

院内調剤科

入院中の患者さまおよび、救命救急センター、透析センター、化学療法センターなどの外来の患者さまが使用される内用薬・外用薬の調剤を24時間体制で行っています。鑑査においては、用法・用量、重複投与、相互作用などを確認していきます。調剤においては、薬袋自動作成機、全自動錠剤分包機、散剤鑑査システム、水剤鑑査システムへ同時に調剤情報が伝達され、業務の効率化を図ると同時に、調剤ミスシステムによって未然に防ぐようにしています。



注射調剤科

処方内容の評価・確認を行い、注射薬を調剤し供給しています。調剤にはピッキングマシンを使用しており、1施用ごとのセットを実施しています。中心静脈栄養液やがん性疼痛や術後疼痛に用いられる麻薬等のPCA(Patient Controlled Analgesia)ポンプの充填、末梢から投与する持続点滴用の注射薬を薬剤部のクリーンルーム、クリーンベンチ内にて混合調製して各病棟に供給しています。また、手術時に使用する麻酔用注射薬を標準的にセットして供給し、さらに手術室へ薬剤師が常駐することによって、周術期の患者さまに対して使用する薬剤の管理を行い、より品質の高い医療を提供しています。



クリニック薬剤室

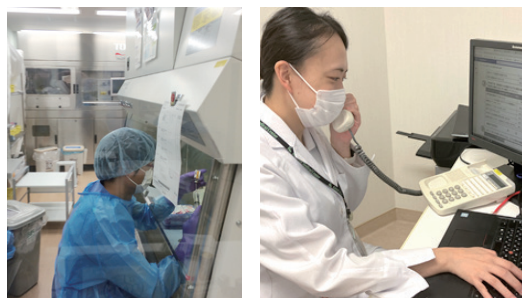
クリニック薬剤室では、主に外来調剤(1日平均1,400枚)、吸入薬の使用方法や成長ホルモンなどの自己注射の指導を行っています。お薬説明書を作成し患者さまに医薬品に関して必要な情報提供を行っています。

薬交付時の服薬説明とは別に、お薬相談室で吸入薬の使用方法の説明(吸入指導)やピークフローメーターを用いた自己管理指導を行っています。また、成長ホルモン、偏頭痛の薬、糖尿病薬(GLP-1)などの自己注射指導および、白内障術前に使用する点眼薬の説明を実施しています。患者さまがお薬の相談を希望された場合も、お薬相談室にて対応しています。お薬相談は予約対応することもできます。



がん化学療法科

化学療法科では、がん化学療法を受けられる患者さまに安心安全な治療を提供しています。外来化学療法のオーダーは事前に薬剤師が院内登録レジメンに基づいて内容の確認を行います。またプロトコルに基づく薬物治療管理(PBPM)を活用し、薬物治療へ積極的に関わるように取り組んでいます。投与当日は、臨床検査値を参照し投与基準を満たすことを確認した後に調製を行います。抗がん剤の調製は入院・外来すべてを薬剤部で行います。完全室外排気型の安全キャビネットや閉鎖式接続器具、抗がん剤調製ロボットを使用し、調製者が安全に作業できる環境を整えています。化学療法開始前や、治療が変更になる場合は患者さまへの説明を実施し、治療開始後は副作用フォローアップおよび適切な支持療法の提案などを行っています。また、胎児への暴露を未然に防ぐ必要のあるサリドマイド製剤およびその誘導体に対し、安全管理の遵守状況を確認しています。特定薬剤治療管理料2の新設により、それらの管理・モニタリングをさらに強化し取り組んでいます。



製剤科

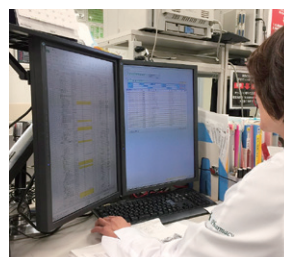
市販されていない薬剤について、文献や資料に基づき、薬学・物理学的な専門知識を活かして患者さまの病態やニーズに対応した院内製剤の調製を行っています。当院では現在約160種類の院内製剤の登録があり、医療現場に供給しています。

また、漢方薬抽出自動包装機や煎じポットを用いた漢方煎じ薬の調製も行っています。



薬務科

医薬品の供給に付随した業務全般が、経済的・合理的・かつ円滑に行われるように調整しています。具体的な業務の一部として、日々の在庫管理、発注業務を法律に則り、適正な在庫量を確保し、医薬品の品質が担保できるように行っています。また、震災等の影響で医薬品の品薄への対応やインフルエンザ治療薬やワクチンの必要量の確保などに努めています。患者さまに安心、安全な医薬品を供給できるよう、また、在庫金額を考慮しながら業務を行っています。



DI科

DI(医薬品情報)科は、医薬品に関する様々な情報を収集し、評価をして、医薬品の適正使用に向けて医師等の医療従事者へ情報提供を行っています。また、当院では処方オーダーリングシステムや医薬品情報システムを活用しているため、これらのマスターや情報の管理も行っています。一方で、医師等からの問い合わせに対しては、医薬品情報の信頼性等を考慮しながら、根拠に基づいた回答を心がけています。さらに、DI科は薬事委員会の事務局も担っています。医薬品が製造販売承認された段階で資料等を収集し、製薬会社からヒアリングを行い、有効性や安全性、経済性等の観点から総合的に評価を行い、評価結果を薬事委員会でプレゼンテーションしています。また、最近では、採用後の安全対策が必要な医薬品については、関連診療科との合意の上で適正使用に向けた安全対策を実施し、採用後のモニタリング・評価を行い、より安心・安全な薬物療法が提供できるよう努めています。



臨床薬剤科 (病棟業務)

集中治療室および一般病棟に薬剤師が常駐し、持参薬管理、処方支援や注射薬の流速確認などの薬剤関連の業務とともに診療科カンファレンスへの参加や回診への同行なども行っています。また、ベッドサイドでの患者面談、診療録情報やフィジカルアセスメントから得られた情報を基に薬に関する問題点を抽出し、安心、安全な薬物治療を提供するために積極的に薬物治療へ参画しています。さらに、タスクシフト・シェア業務の推進を行い、様々な方向からアプローチをすることに挑戦しています。



臨床薬剤科 (TDM : Therapeutic Drug Monitoring)

TDMとは、薬物血中濃度を測定し効果・副作用に関連する様々な因子をモニタリングしながら、それぞれの患者さまに個別化した薬物治療を行うことです。

当院では、年間5,500件近くの薬物血中濃度測定が実施されています。その多くはタクロリムス、シクロスポリンなどの免疫抑制薬やバンコマイシン塩酸塩をはじめとした抗菌薬です。その他、抗てんかん薬、ジゴキシン、テオフィリン、メトトレキサート、リチウムのTDMも行っております。入院/外来に関わらず、薬物血中濃度測定の実施された全ての患者さまにおいて即日TDMレポートを作成し、薬剤師から担当医へコメントを伝えています。

臨床薬剤科 (ICU : Intensive Care Unit ; 特定集中治療室)

当院のICUは、特定集中治療室管理料2の施設基準を満たし、集中治療科医によるclosed ICU体制をとっています。専任の薬剤師を2013年より配置し、現在は病棟薬剤業務実施加算2を算定しています。刻々と変化する患者さまの状態に合わせ、薬物治療が有効かつ安全に行われるよう、回診の参加・ベッドサイドでの薬剤の効果や副作用のモニタリング・TDMを積極的に行い、医師、看護師、臨床工学技士、管理栄養士、臨床検査技師らと連携してチーム医療を実践しています。



臨床薬剤科 (NICU : Neonatal Intensive Care Unit ; 新生児特定集中治療室)

NICU(Neonatal Intensive Care Unit ; 新生児特定集中治療室)は、早産児や低出生体重児、または何らかの疾患のある新生児が、治療のために入る集中治療室です。

当院では、2012年よりNICUでの薬剤管理指導業務を開始しました。調剤部署へ処方せんが出力される前の投与量や流量計算の実施、配合変化等を考慮したルート設計、TDM、保護者への薬剤説明、医師・看護師からの問い合わせ対応などを行っています。



副作用情報センター

当センターは、亀田メディカルセンター内で発現した医療用や一般用(OTC)医薬品による副作用症例を収集し、その情報を一元管理することによって、医薬品の安全性を継続的にモニターし、患者さまが同様な副作用による被害を起こさないことを目的としています。また調査した副作用症例はPMDAに報告しています。

治験管理センター

治験管理センターは、GCPに基づき治験の品質管理・品質保証を確立し、適切に実施するための施設環境の整備・関連各種システム構築とその実行をする部門として、1999年4月に設置されました。

構成員は、センター長(薬剤部長兼務)、CRC(治験コーディネーター)、事務員です。CRCは治験を適正に実施するために治験責任医師を支援しながら治験全体をコーディネートしています。具体的には、外来の治験では診察に立ち会い、被験者さまの来院スケジュール調整や、治験担当医師が治験調査項目を漏れることなく実施・記録しているかを確認します。治験依頼者が直接治験担当医師に問い合わせを行う場合、CRCは面会の日程調整や、問い合わせ内容の確認・記録等を行います。また、新しい治験がスタートする際は、医局説明会をセッティングします。

SMO(Site Management Organization：治験施設支援機関)に業務の一部を委託しています。



PET・RI(放射性医薬品の調製及び品質管理業務)

日本核医学会が認定する適切な学会あるいは団体が主催する講習会を受講した薬剤師が、放射性医薬品取り扱いガイドラインに基づき、核医学検査に用いられる様々な放射性医薬品の監査・調製を行っています。

また、亀田PET-CTセンターにおいて、各専門分野で定められた品質管理基準に基づきPET検査薬の[F18]FDGの品質管理業務を行っています。担当薬剤師は、医師、看護師、技師など放射線領域に関わる医療従事者と連携し、病院薬剤師業務としての新しい職能を発揮しています。



8 チーム医療

感染対策チーム (ICT : Infection Control Team)

ICTの薬剤師は、消毒薬などの適正使用や清潔な医薬品の供給などを中心に、様々な感染症を広げない感染防止対策の教育的役割として活動しています。また地域連携を重要視しており、地域から相談も受けています。



抗菌薬適正使用支援チーム (AST : Antimicrobial Stewardship Team)

ASTは不要な抗菌薬の使用を減らし、薬剤耐性菌の発生を遅らせ、さらに医療費を抑制することを目標として活動しています。ASTでは薬剤師が主導となり抗菌薬の使用状況を把握し、適正使用に促すよう情報提供しています。また病棟担当薬剤師と協同して抗菌薬投与の初期から投与量の評価を行うことで感染症治療に貢献しています。採用抗菌薬の絞り込みや、使用制限等のレギュレーションの整備も重要な役割です。

栄養サポートチーム (NST : Nutrition Support Team)

NST 専門療法士が中心となり、電解質や高カロリー輸液などの管理に加えて経腸栄養に関する問題点についても薬学的観点から介入を行っています。回診に同行し、薬剤師の視点からの提案も行っています。



緩和ケアサポートチーム (PCT : Palliative Care Support Team)

PCT 薬剤師は、医師や看護師、チャプレン等と協働して疼痛などの苦痛症状を緩和できるように、薬学的な知見を中心に薬物療法や非薬物療法の推奨提案を行い、より適切な緩和ケアが提供できるように日々活動しています。



腎移植チーム

腎移植では免疫抑制剤、降圧薬、抗菌薬など服用する薬剤は多岐に渡ります。治療の有効性、安全性を確保するためには薬物治療モニタリング (TDM) や薬物相互作用など様々な専門知識が必要となり、薬剤師はチーム医療の中で術前から術後を通して重要な役割を担っています。

血液・腫瘍内科チーム

がん治療は手術、放射線、薬物治療を組み合わせた集学的治療を要し、薬剤師への期待が大きい分野です。血液・腫瘍内科では薬剤師が化学療法実施当日の患者さまへの面談を行い、得られた情報と薬学的な知見から必要な検査の追加の推奨を医師、看護師を含めたチームへ実施することで、がん化学療法の有効性や安全性に貢献しています。

精神科リエゾンチーム

精神科リエゾンチームは精神科に携わる多職種で構成され、主に身体疾患患者さまの精神症状を対象に、毎週チーム回診、カンファレンスを実施しています。薬剤師は個々の患者さまへの投与量・剤形提案などの薬学的な介入を行い、他職種への情報提供・教育も行っています。また得られた情報を担当病棟の病棟薬剤師へ情報提供を行い、薬剤師間での連携をとり、よりよいファーマシューティカルケアの提供に貢献しています。

骨粗鬆症^{しょう}リエゾンチーム

骨粗鬆症は未治療の患者さまが多いとともに、その治療においては、服薬継続率の低さが問題となっています。そこで骨粗鬆症リエゾンチームは、入院から外来、地域医療へとシームレスな連携がとれるよう活動しています。その中で、薬剤師は骨粗鬆症の治療における服薬の必要性や服薬継続の意義、それぞれの薬の特徴について、患者さまにわかりやすい説明書を作成し説明を行っています。

心不全チーム

2013年4月の多職種による心不全チームの立ち上げから薬剤師が関わり、心不全急性増悪で入院された患者さまに対し、薬剤指導を通して患者教育を行い、心不全カンファレンスの中で薬物治療に関する推奨を行っています。チームとしては、2018年4月から新たな試みとして疼痛・緩和ケア科の医師、看護師にもカンファレンスに参加していただき、心不全患者さまの緩和ケアのサポートを実施しています。

薬剤部周術期管理チーム

医療の高度化・多様化、また高齢化により、周術期医療には様々な職種の連携が求められています。周術期医療への薬剤師の参画は医療の質を高めるために重要視され病院運営の面でもニーズが高まっています。各病棟における術後患者さまに対する薬物療法への介入に加え、2017年11月より術前外来、2018年9月より手術室常駐を開始し、術前・術中・術後と切れ目のない周術期薬物療法を担っています。

コードブルーチーム

患者さまの急変時には、院内緊急招集（コードブルー）がかかり、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士で構成された蘇生チームが参集します。薬剤師もその一員として、24時間365日患者さまの元へ駆けつけ、蘇生の最前線で活動します。薬剤師は、蘇生時に必要な薬剤を装備したエマージェンシーバッグを搬送し、迅速な医薬品の供給と適正使用の推進に努めています。また、平時より薬剤師は BLS、ACLS スキルを身につけ、他職種と連携することで救命活動の貢献に努めています。



救急外来

当院の救急外来では、多職種が各職種の専門性を活かし、患者さまの対応に携わっています。その中で薬剤師は救急車で搬送される重症度の高い患者さまの対応に携わっており、薬物治療を中心とした業務を行っています。



糖尿病教室

糖尿病教室は入院・外来患者さまとご家族を対象に医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、運動療法士が協力して行っています。月曜日が薬剤師担当で13時30分～15時まで「糖尿病の薬について（インスリン自己注射の実際）」というテーマで講義を行っています。

災害派遣チーム

令和6年能登半島地震では、日本病院薬剤師会の一員としてボランティアで被災病院の薬剤部にて業務支援を行いました。

活動内容としては、災害時医療の基礎知識を活かし、被災地で調剤や服薬指導を行いました。また、様々な災害派遣医療チームとコミュニケーションを図ることで、災害フェーズに応じた現場が本当に必要としている薬剤の情報収集、供給を行いました。

被災地の病院職員も同様に被災者であるため、我々が支援に入ることで、震災発生から休まることのなかった方々に休息をとっていただくことが出来ました。

これらのように、薬剤師として薬物治療の提供だけでなく、一医療者として、一人間として被災地への様々な支援の形があります



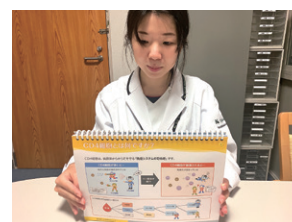
総合周産期母子医療センター

当院にはLDR6床、MFICU14床、NICU9床、GCU18床があり、県南の基幹病院として母児双方の健康に貢献しています。産科では妊娠中や授乳中の薬物療法が及ぼす影響について情報提供を行い、また新生児科においては投与量、投与ルート、相互作用の確認などを行っています。



HIV感染症治療チーム

HIVの治療は、アドヒアランスの維持が非常に重要になります。薬剤師は継続的に面談を行い、服薬に関するサポートをしています。また、患者指導を通して得た情報や問題点等は、カンファレンスで他職種と共有し、チームで患者さまの治療を支えています。



9 教育・研修

教育担当者会

当院薬剤部では、教育担当者会が週に一度設けられており、長期実務実習についての話し合いや様々な内容に関する研修会の立案等を行っています。長期実務実習においては、学生からの意見（例えば、当院で特に学びたいことなど）を大事にしながら、実習生がより良い環境でより多くのことを学べるように話し合っています。研修会については、鴨川という土地柄でも薬剤師としての自己研鑽を行うことができるように、新薬説明会やTDMセミナー、また外部講師を招いた勉強会など幅広い内容についての計画を立てており、研修単位もきちんと取得できるように考えています。

新人研修

実習生だけでなく、新人薬剤師に対しても教育制度がしっかりと構築されています。薬剤部には様々な部署が存在するため、その部署ごとに対象とする疾患や患者さまがそれぞれ異なる部分もあり、取り扱う薬剤も様々であるため、覚えなければならないことが多く存在します。そのため薬剤部では、1、2年目薬剤師がそれぞれの部署を約2年間ローテーションして日常業務を行いながら、様々な処方内容を見て患者さまに接することで、基礎的な知識や技能を身につけることができるような教育制度を構築しています。特に、1年目薬剤師には日常業務をこなすだけでなく、長期実務実習のSBOsのような評価項目に基づいて、それぞれの部署でそれらの評価を全て達成できるように上級薬剤師が教育しています。2年間のローテーション後は、自分が一番興味の持てる分野に携わる部署に配属希望することも可能です。

1年目前期研修スケジュール

		1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目	9週目	10週目	11週目	12週目	13週目	
1G	薬剤師A	オリエンテーション レジメン講義	院内/CL						注射調剤科						
	薬剤師B														
	薬剤師C														
	薬剤師D(TTSP)														
2G	薬剤師E		注射調剤科						薬務科	製剤科	化療(レジメン)	化療(調製)	院内/CL		
	薬剤師F										化療(調製)	化療(レジメン)			
	薬剤師G								化療(レジメン)	化療(調製)	薬務科	製剤科			
	薬剤師H(TTSP)								化療(調製)	化療(レジメン)					
3G	薬剤師I		化療(レジメン)	化療(調製)	注射調剤科	CL 窓口研修	院内 / CL					薬務科			
	薬剤師J		化療(調製)	化療(レジメン)											
	薬剤師K		薬務科	製剤科									化療(レジメン)		

		14週目	15週目	16週目	17週目	18週目	19週目	20週目	21週目
1G	薬剤師A	注射調剤科		化療(レジメン)	化療(調製)	CL 窓口研修		薬務科	製剤科
	薬剤師B			化療(調製)	化療(レジメン)			化療(調製)	化療(レジメン)
	薬剤師C			薬務科	製剤科			化療(レジメン)	化療(調製)
	薬剤師D(TTSP)								
2G	薬剤師E	院内 / CL						CL 窓口研修	
	薬剤師F								
	薬剤師G								
	薬剤師H(TTSP)								
3G	薬剤師I	製剤科	注射調剤科					院内 / CL	
	薬剤師J								
	薬剤師K								

クリニック(CL) 薬剤室研修(2週間)
 ・窓口業務などCL薬剤室でしか研修できない内容を行う。

夜勤、休日出勤研修(9月、10月)
 ・夜勤(2回) 8時出勤翌日8時まで勤務(仮眠あり)
 ・休日(1回)
 ・11月～夜勤、休日出勤開始

院内調剤科、薬務科、製剤科研修(8週間)

- ・「院内」のスケジュールには、製剤科研修(7日間)を含む(該当週を「製剤/薬務」と表示)。ただし、研修評価は「院内」のスケジュール内の17時以降に行う。
- ・「院内」のスケジュールには、薬務科研修(3日間)を含む(該当週を「製剤/薬務」と表示)。

注射調剤科、化学療法科研修(10週間)

- ・レジメンチェック講義：4～5日を用いて集中講義を実施する。レジメンチェック講義の週で余った日は1週目の部署で研修を行う。
- ・「注射」のスケジュールには、化学療法科研修(2週間)を含む(該当週を「注射/化療」と表示)。
- ・化学療法科の研修日は、8時～11時、14時～17時が化学療法科、11時～14時が注射調剤科シフトとなる。

📅 1年目後期研修スケジュール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
薬剤師A	注射調剤科	注射調剤科	DI科 / 副作用情報センター	副作用情報センター / DI科	院内調剤科	院内調剤科	臨床薬剤科	臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室	化学療法科
薬剤師B	化学療法科	注射調剤科	注射調剤科	DI科 / 院内調剤科	副作用情報センター / DI科	院内調剤科	院内調剤科	臨床薬剤科	臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室
薬剤師C	CL 薬剤室	化学療法科	注射調剤科	注射調剤科	DI科 / 院内調剤科	副作用情報センター / DI科	院内調剤科	院内調剤科	臨床薬剤科	臨床薬剤科 (K1)
薬剤師E	臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室	化学療法科	注射調剤科	注射調剤科	DI科 / 副作用情報センター	副作用情報センター / DI科	院内調剤科	院内調剤科	臨床薬剤科
薬剤師F	臨床薬剤科	臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室	化学療法科	注射調剤科	注射調剤科	DI科 / 副作用情報センター	副作用情報センター / DI科	院内調剤科	院内調剤科
薬剤師G	院内調剤科	臨床薬剤科	臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室	化学療法科	注射調剤科	注射調剤科	DI科 / 副作用情報センター	副作用情報センター / DI科	院内調剤科
薬剤師I	院内調剤科	院内調剤科	臨床薬剤科	院内調剤科 / 臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室	化学療法科	注射調剤科	注射調剤科	DI科 / 副作用情報センター	副作用情報センター / DI科
薬剤師J	注射調剤科	院内調剤科	院内調剤科	臨床薬剤科	院内調剤科 / 臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室	化学療法科	注射調剤科	副作用情報センター / DI科	DI科 / 副作用情報センター
薬剤師K	副作用情報センター / DI科	DI科 / 副作用情報センター	院内調剤科	院内調剤科	臨床薬剤科	臨床薬剤科 (K1)	CL 薬剤室	化学療法科	注射調剤科	注射調剤科
薬剤師D(TTSP)	臨床薬剤科	副作用情報センター / DI科	DI科 / 副作用情報センター	TTSP 研修						
薬剤師H(TTSP)	副作用情報センター / DI科	DI科 / 副作用情報センター	臨床薬剤科							

DI科/副作用情報センター	(AM) DI科 (PM) 副作用情報センター	臨床薬剤科 (K1)	アセスメントカウンター業務をメインで行う
副作用情報センター/DI科	(AM) 副作用情報センター (PM) DI科	院内調剤科/臨床薬剤科 (K1)	(AM) 院内調剤科 (PM) 臨床薬剤科 (K1)

<補足説明>

○副作用情報センターの研修時間を2021年度から下記に変更しました。

DI科研修中(化学療法/DI、DI/化学療法)に1週間、3時間/日(計18時間)で行う。 → 臨床薬剤科研修中に4時間/日で行う。

○新規に「臨床薬剤科 (K1)」の研修を追加しました。

病棟薬剤業務実施加算算定継続にあたり臨床薬剤科への人員配置が十分ではないことを考慮し、また臨床薬剤科ローテーション前に初期アセスメントとしてのKタワー1階アセスメントカウンターを経験することが有用であると考え、今年度は「臨床薬剤科 (K1)」を追加しました。

メンター制度

1、2年目薬剤師に対してはメンター制度を導入しています。慣れない環境の中で様々な新しい事を覚えなければならない1年目薬剤師が悩みやストレスをため込まないように、年齢が一番近い2年目薬剤師が何でも相談にのれるように体制を組んだものです。2年目薬剤師は、1年目薬剤師同様にそれぞれの部署でローテーションしているため、1年目薬剤師が相談しやすく、何でも話せる環境を整えています。



国際交流の取り組み

薬剤部では2018年より海外研修生の受け入れを行っています。2018年はマレーシア、韓国、台湾から薬剤師を受け入れ、海外研修生の研修目的および期間に合わせた内容にしています。2019年は相互交流として、当院薬剤部員が台湾大学病院で研修し、以後、韓国のソウル大学病院、シンガポール総合病院(SGH)、シンガポール国立病院(NUH)との交流を通して、海外の薬剤師の職能、薬学教育、医療制度等を学んでいます。薬剤師レジデントはこれまでタイのチュラロンコン大学病院やシンガポールのNUHなどで海外研修を行っています。また、米国の様々な大学(南カリフォルニア大学、パシフィック大学)からの留学生も毎年受入れています。このような取り組みは、日本や自施設の医療や医療体制について考える非常によい機会となります。亀田総合病院には海外に挑戦できる環境が充実しています。

亀田メディカルセンター薬剤部 国際交流マップ



⑩ 試験・研究

臨床における治療は、日々 Update されています。そのため、薬剤師は日々自己研鑽を行い、新たな薬物治療について情報収集し続ける必要があります。当院では、病院内で様々な診療科・部署主催の講演会が開催されており、業務後に最高水準の医療についてのレクチャーを受けることができます。また、院内の勉強会に限らず、県内・県外の研修会に参加すると共に多くの薬剤師が自身の研究テーマについての学術発表を行っています。さらに、社会人大学院への進学や専門・認定薬剤師取得へのキャリアパスへのサポートも行っており、大学とも提携し、臨床研究を技術面からサポートしてもらえる環境も整っています。

⑪ 薬剤師レジデント制度 (TTSP)

📎 目的

TTSPとは、Transdisciplinary Transition Support Programの略称であり、職種を超えて横断的な教育を受けることで、臨床における幅広い知識と技術の習得を図り、病院内の様々な職種と連携してチーム医療において活躍できるプロフェッショナルスキルと高い倫理観をもった薬剤師の養成を目的としたプログラムです。

📎 活動内容

2年間の研修で調剤業務や病棟薬剤業務等といった病院薬剤師としての基本的な知識・技術・態度を身につけることは当然のことながら、初期研修医と同等の研修を行うことで、診断・治療の過程を学び、共通言語の理解だけではなく、医療人として視点の育成・視野の拡大を目指します。さらに、看護師・臨床検査技師・管理栄養士などとの研修を通して、コメディカルについての理解を深めます。



教育・研究として臨床の場で直面した薬物治療における問題点を解決するプロジェクトを立ち上げ、研究課題として遂行することで問題解決能力を身につけ、院内の勉強会の講師を担ってもらうことで教育のスキルも身につけることができます。海外を含めた他施設での研修も実施しており、タイ王国のChulalongkorn UniversityやシンガポールのNational University Hospitalでの海外研修の実績があります。風土・文化・法律が異なる医療に触れ、薬剤師の役割について広い視野で見つめ直す機会もあります。

教育・研究として臨床の場で直面した薬物治療における問題点を解決するプロジェクトを立ち上げ、研究課題として遂行することで問題解決能力を身につけ、院内の勉強会の講師を担ってもらうことで教育のスキルも身につけることができます。海外を含めた他施設での研修も実施しており、タイ王国のChulalongkorn UniversityやシンガポールのNational University Hospitalでの海外研修の実績があります。風土・文化・法律が異なる医療に触れ、薬剤師の役割について広い視野で見つめ直す機会もあります。

📅 TTSPおよび一般職員の研修スケジュール

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般職員	薬剤部セントラル業務研修: 院内調剤科、注射調剤科、化学療法科、 クリニック薬剤室、製剤科、薬務科					セントラル業務リカレント研修(ローテーション)、 DI研修、副作用情報センター研修、病棟研修、 入院アセスメントカウンター研修 休日出勤研修開始、夜勤研修開始						
TTSP	薬剤部セントラル業務研修 (同上。一般職員と共に行う)					DI研修、副作用情報セン ター研修、病棟研修			他部署研修(栄養管理室、ME室、 リハビリ、看護部など)			

2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般職員	セントラル業務リカレント研修(ローテーション) 病棟研修(2か月) 休日出勤・夜勤業務、診療科研修(感染症内科):希望者											
TTSP	薬物療法専門・ がん専門薬剤師 修練コース	医師 診療科研修:希望・研修目的に応じ個別に調整 例) 感染症科、呼吸器内科、救命救急科、集中治療・心臓血管外科、血液・腫瘍内科										海外 研修・ まとめ
	地域薬学ケア薬 剤師修練コース	医師 診療科研修:希望・研修目的に応じ個別に調整 例) 感染症科、脳神経内科、循環器内科、疼痛・緩和ケア科 在宅関連薬局研修										
	小児・周産期領 域専門薬剤師 修練コース	医師 診療科研修:希望・研修目的に応じ個別に調整 例) 感染症科、小児科、産婦人科、NICU、生殖医療科 保険薬局研修										

* コースおよび年度により研修内容は異なります。

詳細は、TTSPホームページをご覧ください。 URL (<https://www.kameda-resident.jp/pharmacist/index.html>)



FIP2025 83rd FIP World Congress of Pharmacy
2025.8.31-2025.9.3 デンマーク

12 薬剤部イベント

* Instagram 公式アカウント



https://www.instagram.com/kameda.yakuzai_official/?hl=ja

* Facebook 公式アカウント



<https://www.facebook.com/kameda.yakuzai/>

13 海外発表

The Federation of Asian Pharmaceutical (FAPA)



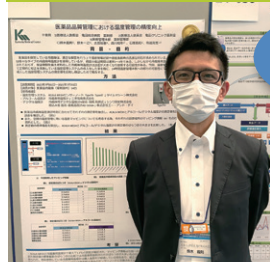
2023.10.24-
in Taipei



2024.10.29-
in Seoul

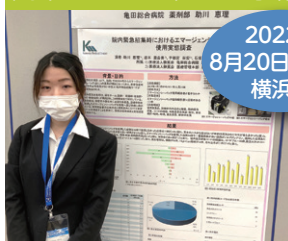
14 国内発表

第24回日本医療マネジメント学会学術総会



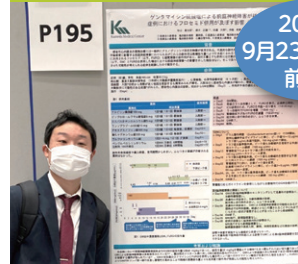
2022年
7月8日～9日
神戸市

日本病院薬剤師会
関東ブロック第52回学術大会



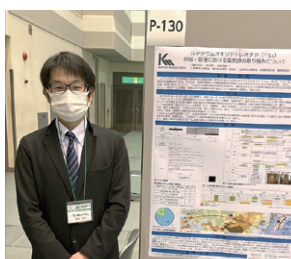
2022年
8月20日～21日
横浜市

第32回日本医療薬学会年会



2022年
9月23日～25日
前橋市

日本臨床腫瘍薬学会学術大会2023(JASPO)

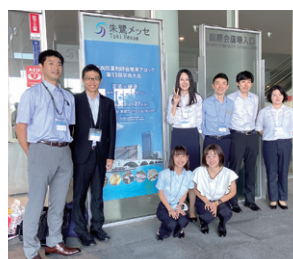


P-130



2023年
3月4日～5日
名古屋市

日本病院薬剤師会関東ブロック 第53回学術大会



2023年
8月26日～27日
新潟市

第7回
日本精神薬学会総会・学術集会



2023年
9月16日～17日
岡山市

第14回
日本炎症性腸疾患学会学術集会



2023年
12月1日～2日
神戸市

第39回日本臨床栄養代謝学会
学術集会(JSPEN2024)



2024年
2月15日～16日
横浜市

【2022年度】

＜学術関係発表者＞

1) 原著論文・症例報告

- ・岡田拓朗
Practical Efficacy of Prior Checks on Athletes' Medication Use for the Prevention of Unintentional Doping
松尾史朗、島田和典、南野 徹
Substance Use & Misuse, 57(13),1946-1952 (2022)
- ・寺口 徹
COVID-19 対策 手術室に求められる対応とは ―薬剤師の立場から―
舟越亮寛
日本手術医学会誌 43(2):142-145,2022.
- ・船木麻美
Factors Affecting Patients' Acceptance of Switching to Biosimilars Are Disease-Dependent: A Cross-Sectional Study
平田一耕、伊勢崎竜也、舟越亮寛
Biological and Pharmaceutical Bulletin,46, 128-132 (2023)
- ・湯山 聡
イサツキシマブ投与方法標準化における有用性と安全性の評価
伊勢崎竜也、舟越亮寛
日本臨床腫瘍薬学会雑誌,,26,9-15 (2022)
- ・平田一耕
Shared decision-making practices and patient values in pharmacist outpatient care for rheumatic disease: A multiple correspondence analysis
花岡俊輔、六反田諒、舟越亮寛、林 宏行
J. pharm. pharm. sci., 20 January 2023
- ・平田一耕
術後の嘔気嘔吐対策:薬剤師の関与と薬学的アプローチ
臨床麻酔(真興交易)45(3)2021年
- ・菅野 智
リュープロレリン製剤の供給停止に伴う患者の影響調査
日本病院薬剤師会雑誌 59(3):257-262,2023.
松本良順、伊勢崎竜也、舟越亮寛
- ・大場啓貴
アテローム血栓性脳梗塞患者のCYP2C19がpoor metabolizerの症例に対して抗血小板薬の選択に薬学的介入をした1例
鈴木正論、伊丹雄也、萩野琢郎、舟越亮寛
日本病院薬剤師会雑誌,59,41-45,(2023).

2) 雑誌関連

- ・舟越亮寛
特集 早期に見極め すばやく対応！重篤副作用の予防と治療「RMPはこう使う！」
月刊薬事、64,8,1563-1566 (2022)
- ・舟越亮寛
特集 早期に見極め すばやく対応！重篤副作用の予防と治療「アナフィラキシー」
月刊薬事、64, 8, 1596-1600 (2022)
- ・舟越亮寛
薬薬連携のススメ ①入退院
①調剤と情報 ②Vol.28 No.10 ③じほう

- ・舟越亮寛
ジェネリック医薬品の特徴を再確認
①調剤と情報 ②Vol.28 No.10 ③じほう
- ・舟越亮寛
見逃せない！検査・手術前休薬リスト
①調剤と情報 ②Vol.28 No.10 ③じほう
- ・舟越亮寛
フォシーガ®錠
①調剤と情報/新薬くろ〜ずあっぷ ②254回 Vol.28 No.11 ③じほう
- ・舟越亮寛
カログラ®錠120mg
①調剤と情報/新薬くろ〜ずあっぷ ②258回 Vol.28 No.16 ③じほう
- ・川名真理子
特集 患者の苦痛にどう寄り添う？なにができる？がん緩和ケア「疼痛以外の症状のマネジメント」
調剤と情報、28,5,680-689 (2022)
- ・川名真理子
特集 早期に見極め すばやく対応！重篤副作用の予防と治療「WEBから信頼性の高い副作用情報を得るには？」
月刊薬事、64,8,1556-1558 (2022)
- ・川名真理子
第253回新薬くろ〜ずあっぷ「レットヴィモカプセル」
調剤と情報、28,9,1470-1478 (2022)
- ・川名真理子
処方意図がわかる！
外来でよくみる29疾患の最新ガイドライン虎の巻「夜間頻尿」
調剤と情報、28,14,2488-2496 (2022)
- ・平田一耕
α4インテグリン阻害薬(カロテグラストメチル)
調剤と情報 2023年1月号(Vol.29 No.1)
- ・北原加奈之
ハイリスク薬フォローアップ、4バイタルサインの基礎——血圧、脈拍、体温、呼吸
月刊薬事2022年7月増刊号 Vol.64 No.10.2022年

3) 学会・研究会発表

- ・園部あみ
血液・腫瘍内科におけるPBPM導入後の評価とその課題
第11回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022
2022/3/12～2022/3/13
- ・菅野 智
リュープロレリン製剤の供給停止に伴う患者の影響調査
日本薬学会第142年会
2022/3/25～2022/3/28
- ・村井里帆
当院における抗凝固療法中の拮抗薬の使用実態調査
日本薬学会第142年会 2022/3/25～2022/3/28
- ・鈴木義則
医薬品品質管理における温度管理の精度向上
第24回日本医療マネジメント学会学術総会
2022/7/8～2022/7/9
- ・吉川佳那
特定の背景を有するCOVID-19患者へのレムデシビル使用報告 第30回クリニカルファーマシーシンポジウム医療薬学 フォーラム2022

2022/7/23～2022/7/24

- ・平田一耕
バイオシミラーへの切り替えの患者の受け入れに影響を与える要因第16回日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 2022/8/6～2022/8/7
- ・助川恵理
院内急変対応におけるエマージェンシーバックの使用状況の調査
日本病院薬剤師会 関東ブロック第52回学術大会 2022/8/20～2022/8/21
- ・武藤将輝
当院における統合失調症に対する持効性抗精神病剤の処方実態調査(未定)
日本病院薬剤師会 関東ブロック第52回学術大会 2022/8/20～2022/8/21
- ・與儀早和子
重量監査システムを用いた抗がん剤調製に必要な医薬品情報の開示状況に関する実態調査
日本病院薬剤師会 関東ブロック第52回学術大会 2022/8/20～2022/8/21
- ・横山泰昭
基幹病院におけるBCPの実際
第32回日本医療薬学会年会 2022/9/23～2022/9/25
- ・秋山真太郎
ゲンタマイシン硫酸塩による前庭神経障害が疑われた症例におけるフロセミド併用が及ぼす影響(症例報告)
第32回日本医療薬学会年会 2022/9/23～2022/9/25
- ・寺口 徹
当院における手術室薬剤師業務のタスク・シフト/シェアの現状分析 第44回日本手術医学会総会 2022/10/14～2022/10/15
- ・片岡柚香里
Assessing clinical competence of entry- to advanced- level pharmacists using case-based discussions in Japan
FAPA2022 / The 28th Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress 2022/11/9～2022/11/12

4) 講師

- ・北原加奈之
実症例でみる有害事象に対するアプローチと副作用報告,AMED委託研究 医薬品等規制調和・評価研究事業 副作用報告研究班 2022年度第1回WEB講演会 2022/1/28
- ・平田一耕
IBD update,2022/3/2
- ・北原加奈之
有害事象に対する薬学的推論 東京都中小病院実務研究会 2022/3/18
- ・平田一耕
乾癬生物学的製剤薬剤師の立場からの選択 薬剤師のための乾癬webセミナー 2022/3/25
- ・平田一耕
薬剤師外来における乾癬治療への関わり方 薬剤師のための乾癬講演会 2022/4/14
- ・舟越亮寛
令和4年度診療報酬改定を踏まえた薬剤部業務の変化について(バイオシミラーの考え方も含めて)千葉県病

院薬剤師会 南部支部研修会 2022/4/15

- ・横山泰昭
第68回特別ゼミナール 薬物治療モニタリング研究会 2022/4/16
- ・舟越亮寛
医療の質を担保したタスクシフティング・シェアリング 明日の医療を考える会 for Hospital Pharmacist 2022/6/3
- ・舟越亮寛
病院薬剤師業務を取り巻く周辺環境をチャンスに変える方策 2022
令和4年 宮城県病院薬剤師会総会特別講演会 2022/6/4
- ・舟越亮寛
薬局長育成塾 2022/6/10
- ・舟越亮寛
医薬品安全管理責任者の責務について 日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会(基礎編) 2022/6/11
- ・舟越亮寛
日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファレンス 2022/6/12
- ・舟越亮寛
システムを利用した薬剤情報閲覧における留意点及び備えるべき知識について 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー 2022/6/16
- ・北原加奈之
病歴聴取 OPQRST 東京都病院薬剤師会 臨床推論研究会(通年)第1回 2022/6/23
- ・舟越亮寛
病院薬剤部におけるリスクコミュニケーションと実際の業務についての紹介 2022年度安全管理・調査(PV) エキスパート研修講座 2022/6/29
- ・平田一耕
免疫疾患における薬剤師の現在と今後の役割 ～関節リウマチを中心に～ 日本大学薬学障害教育講座 2022/6/29
- ・舟越亮寛
周術期における薬剤師の専門性発揮のための業務合理化の必要性 第5回広島公的病院薬剤部長マネジメントカンファレンス 2022/6/30
- ・北原加奈之
病歴聴取の基礎 日本服薬支援研究会 第1回 2022/7/8
- ・宇田川雄也
病棟薬剤師の視点から見た糖尿病注射剤治療 糖尿病注射剤WEBセミナー 2022/7/12
- ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進のための現況と課題 北見薬剤師会講演会 2022/7/13
- ・横山泰昭
病院機能特論演習 城西国際大学薬学部 2022/7/14
- ・舟越亮寛
地域医療安全を担保する リスク最小化活動 2022 岩手県薬剤師セミナー 2022/7/14
- ・舟越亮寛
シンポジウム9: 医療安全部門担当薬剤師が今後期待する薬剤部門薬剤師の役割
シンポジウム11: 周術期医療における薬学的介入効果を実証する調査・研究 第5回 日本病院薬剤師会

- Future Pharmacist Forum 2022/7/16
- ・舟越亮寛
地域フォーミュラの策定と課題 ～糖尿病治療を中心に～
講演会「Pharmacist seminar in Hokkaido」
2022/7/21
 - ・舟越亮寛
日本病院薬剤師会 薬学生向け病院薬剤師に関する講演
2022/8/8
 - ・舟越亮寛
周術期医療における薬剤師の専門性発揮のための業務
合理化の必要性
第2回 East Kobe Pharmacist Director's Seminar
2022/8/22
 - ・舟越亮寛
周術期医療における薬剤師の専門性発揮のための業務
合理化の必要性
第6回熊本市公的病院薬剤師部長マネジメントカンファ
レンス 2022/8/26
 - ・舟越亮寛
円滑な在宅医療への移行にむけた病棟活動 B r i d g e
Web Seminar 2022/9/5
 - ・舟越亮寛
周術期管理における薬剤師の役割 ～医療安全の視点から～
福岡県病院薬剤師会医療安全対策WEBセミナー
2022/9/6
 - ・舟越亮寛
周術期医療における薬剤師の専門性発揮のための業務
合理化の必要性 第10回 京都 Pharmacist Expert
Meeting 2022/9/10
 - ・舟越亮寛
周術期管理チームにおける薬剤師の更なる業務展開
Live Symposium for Pharmacist 2022/9/12
 - ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進の現況と課題(病院経営面に与え
る影響) 近畿南部エリア Pharmacist WEBセミナー
2022/9/28
 - ・舟越亮寛
薬剤師の立場からみた神経障害性疼痛治療について
安房薬剤師会薬業会研修会 2022/9/29
 - ・北原加奈之
病歴聴取とバイタルサイン 日本服薬支援研究会 第2回
2022/10/7
 - ・舟越亮寛
バイオシミラーに関する取り組みと病院経営への貢献
地域医療連携WEB Seminar 2022/10/19
 - ・舟越亮寛
薬剤師が企業くすり相談窓口に求めること 日本製薬工
業協会薬相談対応検討会 2022/10/21
 - ・舟越亮寛
Pharmacist Seminar 2022/10/29
 - ・北原加奈之
病棟薬剤師の役割と今後の課題 医療安全講義(Web
録画配信) 2022/11/1
 - ・北原加奈之
検査所見の異常(肝障害) 日本服薬支援研究会 第3回
2022/11/4
 - ・舟越亮寛
医療安全対策委員会の取り組みについて～医療安全に
関する最近の話題～ 日本病院薬剤師会 医薬品安全
管理責任者等講習会(基礎編) 2022/11/11
 - ・舟越亮寛
- これからの医療情報業務のあり方2022 秋田県病院
薬剤師会生涯教育研修会
2022/11/16
 - ・舟越亮寛
術後疼痛の適正化に向けた薬剤師の関わり Pain Live
Symposium ～術後頭痛マネジメント～
2022/11/17
 - ・北原加奈之
薬学臨床推論
病態把握と副作用の判断 南房総臨床薬学セミナー
2022/11/24
 - ・舟越亮寛
副作用救済制度の医療機関での実践例と課題
2022年度第1回薬剤業務・学術情報委員会研修会
2022/11/24
 - ・北原加奈之
生理学的所見(心電図) 日本服薬支援研究会 第4回
2022/12/2
 - ・北原加奈之
臨床推論・副作用編(薬物性肝障害) 循環器病棟に配
属になる薬剤師のための基礎講座「臨床推論を身につ
けよう」 2022/12/5
 - ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進の現況と課題(病院経営面に与
える影響) Pharmacy Director Seminar in 南河内
2022/12/6
 - ・平田一耕
関節リウマチ患者の共同意思決定を含む
薬剤師の関わりと薬物選択について 南房総臨床薬学
セミナー(君津、木更津) 2022/12/8
 - ・平田一耕
周術期の薬学的評価の標準化と薬剤師の介入は臨床評
価指標を向上し術後合併症の減少に影響を与える;傾
向スコアマッチングを用いた比較検討 秋田県病院薬
剤師会学術講演会 2022/12/9
 - ・伊勢崎竜也
内分泌療法 がん看護学持論Ⅳ 2022/12/14
 - ・舟越亮寛
病院薬剤師と医療DXの新たな展開 JP病院薬剤師
フォーラム 2023/1/19
 - ・北原加奈之
有害事象に対する薬学的推論 鹿児島県南薩薬剤師会
2023/1/20
 - ・舟越亮寛
今後変化する薬剤師の役割 Innovation Forum for
Clinical Pharmacist 2023/1/25
 - ・舟越亮寛
バイオシミラーに関する取り組みと病院経営への貢献
Pharmacist Web Seminar in CHIKUGO
2023/1/27
 - ・北原加奈之
臨床推論 大垣市民病院薬剤師部講演 2023/2/2
 - ・北原加奈之
感度・特異度10本ノック 東京都病院薬剤師会
臨床推論研究会(公開講座)第1回 2023/2/11
 - ・川名真理子
医薬品情報の利活用 第49回長野県病院薬剤師会薬剤
師専門講座 2023/2/14
 - ・川名真理子
周産期領域を含む医薬品情報の利活用 宮城県病院薬
剤師会研修会 2023/2/14

- ・北原加奈之
P5 講義：臨床推論 東京薬科大学講義 2023/2/16
- ・小倉宏之
経口抗がん薬を安全に使用するための管理について考える 令和4年度第1回千葉県がん診療連携協議会薬剤師研修会 2023/2/18
- ・平田一耕
薬剤師によるIBD治療薬の情報提供および指導のコツ 炎症性腸疾患を考える会 2023/2/20
- ・北原加奈之
低ナトリウム血症の症例 東京都病院薬剤師会 臨床推論研究会(公開講座)第2回 2023/3/11
- ・北原加奈之
臨床推論～がんを中心としたCTの見方 第40回がん薬物療法セミナー 2023/3/17
- ・寺口 徹
周術期と術後疼痛 千葉県病院薬剤師会医療政策委員会 令和4年度医療政策・診療報酬研修会 2023/3/18
- ・北原加奈之
検査所見からみる臨床推論(肝障害編) ～心不全を既往にもつ症例を例に～ 領域別カンファレンス研修会 2023/3/21
- ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進の現況と課題 大腸癌UP to Date 202/5/10
- ・大友謙太郎
アンチ・ドーピング(公財)日本水泳連盟 2022年度公認水泳コーチ3・コーチ4研修会 2022/12/1～2023/1/31

5) 講義・研修実績

<院外>

- ・亀田医療大学講義(全34回)
- ・亀田医療技術専門学校講義(全7回)

<院内>

- ・看護部向け講義(ナースのための薬学講座)(全12回)
- ・集中講義(全5回)
- ・特定行為に関する講義(全9回)

6) 座長・オーガナイザー・司会

- ・舟越亮寛
薬物療法のタスク・シフティングの取り組みと舞台裏～PBPM副作用モニタリングの充実と課題を含めて 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー 2022/4/21
- ・舟越亮寛
令和4年度診療報酬改定のポイントと病院薬剤師の未来 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー 2022/5/12
- ・舟越亮寛
Advanced Pharmacist Seminar in 千葉埼玉 2022/6/23
- ・北原加奈之
意識障害に問題のある患者の対応 日本医療薬学会 2022/9/23
- ・舟越亮寛
令和4年度 日本薬剤師レジデント制度研究会 第5回レジデントカンファレンス 2022/10/29
- ・伊勢崎竜也

尿路上皮癌の総論と薬物療法 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー 2022/12/1

- ・北原加奈之
病歴聴取 Second Stage～OPQRSTを斬る!～ 東京都病院薬剤師会臨床推論研究会(通年)第3回 2022/12/3
- ・舟越亮寛
薬剤部門活性化のための組織 令和4年度第2回中小病院薬剤師実践セミナー 2022/12/4
- ・舟越亮寛
安房薬剤師会薬業会マブミット販売20周年記念講演会 2022/12/8
- ・舟越亮寛
医師・薬剤師で考える循環器領域でのチームの実践 Pharmacist Seminar 2022/12/16
- ・安室 修
悪性リンパ腫診療の基本と実践 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー 2023/1/19
- ・伊勢崎竜也
『がん薬物療法におけるアピアランスケア』 2022年度 第3回がん専門・認定薬剤師講習会 2023/2/11
- ・伊勢崎竜也
造血管腫瘍における分子標的薬のTDM 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー 2023/2/22
- ・伊勢崎竜也
基礎から学ぼう 大腸がん 2022年度第1回がん専門・認定薬剤師講習会 2023/9/17
- ・伊勢崎竜也
血液がん 多発性骨髄腫を学ぼう 2022年度第2回がん専門・認定薬剤師講習会 2023/11/12

7) その他

- ・川名真理子
緩和ケア研修会(集合研修) 2022/4/2
- ・北原加奈之
ワンセンテンスサマリー 東京都病院薬剤師会 臨床推論研究会(通年)第2回 2022/9/7
- ・北原加奈之
症例(微生物)毎に考える適切な抗菌化学療法とは 令和4年度日本薬剤師レジデント制度研究会 第5回レジデントカンファレンス 2022/10/29
- ・北原加奈之
Assessing clinical competence of entry- to advanced-level pharmacists using case-based discussions in Japan FAPA2022 2022/11/10
- ・平田一耕
JAK基礎研究会の会 2022/3/6

【2023年度】

<学術関係発表者>

1) 原著論文・症例報告

- ・川名真理子
宮里明芽、長谷圭悟、鈴木訓史、小野田千晴、藤本英哲、大野凜太郎、日下部鮎子、桐林美緒、中村和代、近藤匡慶、尾関あゆみ、岡本晃典、国分秀也
[Comparison of Analgesic Efficacy and Safety of Low-Dose Transdermal Fentanyl and Oral Oxycodone in Opioid-Naïve Patients with Cancer

Pain]
Biol. Pharm. Bull. 46, 1444-1450 (2023)
・平田一耕
舟越亮寛
炎症性腸疾患専門外来における薬剤師外来の有用性の検討
Yakugaku Zasshi 143(11) 2023年
・平田一耕
Shunsuke Hanaoka, Ryo Rokutanda, Ryohkan Funakoshi, Hiroyuki Hayashi
Shared decision-making practices and patient values in pharmacist outpatient care for rheumatic disease: A multiple correspondence analysis.
Journal of pharmacy & pharmaceutical sciences : a publication of the Canadian Society for Pharmaceutical Sciences, Societe canadienne des sciences pharmaceutiques 26 11135-11135 2023

2) 雑誌関連

- ・川名真理子
第5章 がん疼痛治療を深める
「オピオイド鎮痛薬の効きにくい痛み」、「鎮痛補助薬」、「オピオイドスイッチング」
調剤と情報、29, 1093-1097(2023)
- ・川名真理子
新薬くろ〜ずあっぷ
「テゼスパイア皮下注210mgシリンジ」
調剤と情報、29, 1452-1458(2023)
- ・川名真理子
特集：2023年、なにがあった？
「全身作用型ジクロフェナクに腰痛などの適応が追加！」
薬局、17, 2191-2194(2023)
- ・川名真理子
新薬くろ〜ずあっぷ 「リネイルゲル10%」
調剤と情報、30, 580-586(2024)
- ・寺口 徹
舟越亮寛
第2章 術前管理 3 内服薬のチェック
日本医事新報社『外国人患者への周術期マネージメント【電子版付】』
- ・舟越亮寛
ヘイル 薬剤と母乳 MMM2023 (第20版)
医学書院 MMM2023 原書第20版
- ・舟越亮寛
服薬指導・薬剤情報
医学書院 「今日の治療指針」2024年度版
- ・舟越亮寛
バイオシミラーと薬剤師
週刊 社会保障 0925号 ひろば
- ・舟越亮寛
分科会の見どころ・聞きどころ
薬事日報 2023/9/6
- ・平田一耕
実践! コーチング コーチ929の活動(第10回) 研修を受けた職員のコーチング実践と実践発表会
病院経営羅針盤 14(236) 60-63 2023/7
- ・平田一耕
【薬学的管理に活かす 臨床薬理UPDATE 2023】α4
インテグリン阻害薬(カロテグラストメチル)

調剤と情報 29(1) 36-41 2023/1

- ・船木麻美
〜処方監査に強くなる とある薬剤師の物語〜
ドラッグ・クエスト クエスト35、36
調剤と情報 2023年10月臨時増刊号
- ・船木麻美
新薬くろ〜ずあっぷ オスタバロ皮下注
調剤と情報 2023年4月号

3) 学会・研究会発表

- ・平田一耕
関節リウマチにおける免疫薬剤師外来での医薬連携の効果 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会
2023/4/24～2023/4/26
- ・榎本健太
吸入後発医薬品への切り替えに際し、患者の受け入れに影響を与える要因の検討 第17回日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
2023/5/20～2023/5/21
- ・伊勢崎竜也
トラスツズマブの先行バイオ医薬品とバイオ後続品を切り替えた乳がん患者の有効性・安全性調査 第17回日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
2023/5/20～2023/5/21
- ・船木麻美
フォルテオ®皮下注からテリパラチドBS皮下注への切り替えにおける潜在変数および満足度の調査 第17回日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
2023/5/20～2023/5/21
- ・川名真理子
オピオイド鎮痛薬未使用のがん疼痛患者におけるフェント®ステープと経口オキシコドン徐放製剤の疼痛薬物療法の比較検討 第16回日本緩和医療薬学会年会
2023/5/26～2023/5/28
- ・川名真理子
ワークショップ1「緩和医療に関する薬剤師のススメ」
第16回日本緩和医療薬学会年会
2023/5/26～2023/5/28
- ・川名真理子
RMPを活用した医薬品適正使用に向けた取り組み 第25回日本医薬品情報学会総会・学術集会
2023/6/10～2023/6/11
- ・北原加奈之
臨床推論に基づいた副作用の考え方と副作用報告 第25回日本医薬品情報学会総会・学術集会
2023/6/10～2023/6/11
- ・北原加奈之
臨床推論に基づいた副作用の考え方と副作用報告 第25回日本医薬品情報学会総会・学術集会
2023/6/10～2023/6/11
- ・宇都宮崇宏
産科病棟におけるICTを活用した服薬指導 第6回フレッシュャーズ・カンファランス
2023/6/11～2023/6/11
- ・平田一耕
患者・家族のQOLを支えるために～総合的な視点を活かした医療安全・治療最適化への関わり⑥～
第6回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum
2023/7/15～2023/7/31
- ・安室 修
よくわかるセミナーがん化学療法への薬剤師の関わり

～副作用対策を中心に～

第9回日本医薬品安全性学会学術大会
2023/7/16～2023/7/17

・大場啓貴

イキセキズマブの添加剤変更による注射部位疼痛と患者満足度への影響 第30回クリニカルファーマシーシンポジウム医療薬学フォーラム2023
2023/7/22～2023/7/23

・湯山 聡

特色のある卒後教育から未来の薬剤師像を考える 第8回日本薬学教育学会大会
2023/8/19～2023/8/20

・大溝 梓

手術前に休薬する薬剤の各種ガイドラインと電子添文の記載の調査
日本病院薬剤師会関東ブロック第53回学術大会
2023/8/26～2023/8/27

・井上将貴

経口抗がん薬使用患者におけるQT間隔延長に関する疑義照会の実施状況
日本病院薬剤師会関東ブロック第53回学術大会
2023/8/26～2023/8/27

・作間航志朗

治療抵抗性統合失調症におけるクロザピンの使用状況および薬学的介入の実態調査
日本病院薬剤師会関東ブロック第53回学術大会
2023/8/26～2023/8/27

・田口優花

βラクタム系抗菌薬にアレルギーを有する患者への薬学的介入および処方提案の調査(第一報)
日本病院薬剤師会関東ブロック第53回学術大会
2023/8/26～2023/8/27

・藤平和花

5-アミノサリチル酸不耐症の発生件数と年次推移、およびリスク因子の調査(第一報)
日本病院薬剤師会関東ブロック第53回学術大会
2023/8/26～2023/8/27

・渡部和幸

当院精神神経科病棟入院中の抗精神病薬内服患者における血栓塞栓症の発生状況に関する調査(第1報)
第7回日本精神薬学会総会・学術集会
2023/9/16～2023/9/17

・宇田川雄也

A Preliminary Study on the Usefulness of Medication Review in Japan
FAPA2023 / The 29th Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress
2023/10/26～2023/10/27

・北原加奈之

マネジメントも新時代～学びを若手に贈る業務体制の在り方～ 第33回日本医療薬学会年会
2023/11/3～2023/11/5

・伊勢崎竜也

Complex caseカンファレンス 一複雑な症例の薬物療法をプロフェッショナルな薬剤師と一緒に考えてみよう
第33回日本医療薬学会年会
2023/11/3～2023/11/5

・大場啓貴

免疫薬剤師外来における在宅自己注射指導の薬学的管理の調査(第一報) 第33回日本医療薬学会年会
2023/11/3～2023/11/5

・平田一耕

免疫薬剤師外来で発見されたTNFα阻害薬によるparadoxical reactionの症例シリーズ 第33回日本医療薬学会年会
2023/11/3～2023/11/5

・森 健太郎

PDA(携帯情報端末)ツールの導入による調剤インシデントの防止への影響 第33回日本医療薬学会年会
2023/11/3～2023/11/5

・片岡柚香里

The progress of international exchange program in oncology pharmacy practice 第33回日本医療薬学会年会 2023/11/3～2023/11/5

・安室 修

抗がん薬調製においてバイアル内圧に対し標高差が及ぼす影響の検討(第2報) 第33回日本医療薬学会年会
2023/11/3～2023/11/5

・田中 慎

兄弟で5-ASA不耐症を認めた小児期発症の潰瘍性大腸炎患者2症例 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会
2023/12/1～2023/12/2

・平田一耕

炎症性腸疾患専門外来における薬剤師外来の有用性の検討 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会
2023/12/1～2023/12/2

・田中 慎

パングレリパーゼの服用方法への薬学的介入により下痢の改善および食事摂取量が増加した1例
第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会
2024/2/15～2024/2/16

・渡部拓登

エンシュア・リキッド®からエンシュア・H®への切り替えによる影響があった2症例
第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会
2024/2/15～2024/2/16

・平田一耕

キャリアパスの探求、多様な選択と後進育成の革新的戦略 第13回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2024
2024/3/2～2024/3/3

・小室雅彦

ニルマトレルビル/リトナビル服用後のコンプライアンス確保に向けた電話による服薬フォローアップ
第13回日本薬剤師レジデントフォーラム
2024/3/9～2024/3/9

・山本亜美

肥満患者における術後感染予防抗菌薬の投与量についての薬学的管理に関する後方視的調査
日本薬学会第144年会
2024/3/28～2024/3/31

・鈴木成惇

「当院におけるタイガシル点滴静注用50mgの適正使用状況の調査」日本薬学会第144年会
2024/3/28～2024/3/31

・川名真理子

「オピオイドnaïveのがん疼痛患者における低用量フェンタニル貼付剤と経口オキシコドン徐放製剤の鎮痛効果および安全性に関する比較検討」日本薬学会第144年会 2024/3/28～2024/3/31

4) その他

・川田 暁

- 船木麻美、石川修平、舟越亮寛、久保田基夫
テリパラチド連日自己注射製剤の導入環境（入院・外来）
の違いによる治療継続率と中止理由
日本老年医学会雑誌、61、87-89（2024） 短報
- ・平田一耕
六反田 諒、舟越亮寛
関節リウマチにおける免疫薬剤師外来での医薬連携の効果
日本リウマチ学会総会・学術集会
- ・平田一耕
秀逸ポスター賞、第67回日本リウマチ学会総会・学術集会

5) 講師

- ・横山泰昭
城西国際大学薬学部 病院機能特論演習
感染症にかかわる薬剤師 2024/2/21
- ・横山泰昭
薬物治療モニタリング研究会 第69回特別ゼミナール
バンコマイシンのTDM 2023/9/9
- ・湯山 聡
第3回 がん薬連携研修会
CTCAEの活用方法 2023/10/6
- ・湯山 聡
2023年度院内活動報告会
若手薬剤師が相談しやすい環境整備に向けた取り組み
～メンター制度の見直し～ 2023/11/14
- ・舟越亮寛
日本社会薬学会
薬剤師の働き方改革とタスクシェア/シフト
2023/4/23
- ・舟越亮寛
日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第17回
学術大会 バイオシミラーの普及・使用促進に向けた課
題と取り組み 2023/5/20
- ・舟越亮寛
ASEAN-Japan Risk Management Plan
Symposium2023
リスク最小化計画とRMPの評価 2023/5/24
- ・舟越亮寛
日本病院薬剤師会
医薬品安全管理責任者等講習会（基礎編）
医薬品安全管理責任者の責務について 2023/7/1
- ・舟越亮寛
第6回 日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Formu
重篤副作用疾患別対応マニュアルWG 2023/7/15
- ・舟越亮寛
レギュラトリーサイエンスエキスパート研修会 総合コース
2023年度安全管理・調査（PV）エキスパート研修講座
2023/7/26
- ・舟越亮寛
令和5年度医薬品安全管理成人者等講習会（WEB）
医療安全対策委員会の取り組みについて ～医療安全に
関する最近の話題～ 2023/11/10
- ・舟越亮寛
第45回 日本手術医学会総会
手術部における多種職をつなぐ人材育成：現状と課題
2023/11/25
- ・舟越亮寛
日本バイオシミラー協議会WEB講演会
バイオシミラー普及に向けた更なる医療機関での対応
と課題 2024/1/19
- ・舟越亮寛

- 薬事情報センター実務担当者等研修会
医療現場における医療安全への取り組み
2024/1/26
- ・舟越亮寛
東京都病院薬剤師会 会員実務研究会
薬剤部門マネジメント2023-周術期医療配置いたるまでー
2024/2/15
- ・舟越亮寛
バイオシミラー協議会「第8回バイオシミラーフォーラム」
バイオシミラーの安定供給 2024/3/18
- ・舟越亮寛
令和5年度医療政策部セミナー WEB
医療DXについて 2024/3/23
- ・花輪和己
帝京平成大学薬学部6年生の講義
医薬特別講義Ⅰ 感染制御領域 2023/10/19
- ・花輪和己
未来がんプロフェッショナル養成プラン
臨床腫瘍薬学特論 2024/2/28
- ・北原加奈之
2023年度 第1回 千葉県がん専門・認定薬剤師講習会
がん薬物療法に活かす！ 画像（CT）を用いた患者の病
態把握 2023/7/29
- ・北原加奈之
循環器病棟に配属になる薬剤師のための基礎講座「臨
床推論を身につけよう」
薬剤師のための血液ガス入門 2024/3/25
- ・北原加奈之
第25回日本医薬品情報学会
臨床推論に基づいた副作用の考え方と副作用報告
2023/6/10
- ・北原加奈之
第6回ぎふかんわケア薬剤師研修会
薬学臨床推論 2023/12/14
- ・北原加奈之
長野県病院薬剤師会特別講演
臨床の学びを考える臨床推論の基礎と実践
2023/6/18
- ・北原加奈之
東京薬科大学講義 P5 講義：臨床推論 2024/2/20
- ・北原加奈之
日赤薬剤師会 臨床薬学研修会「薬剤師力向上を目指し
たオムニバス形式のシンポジウム」
学びを若手に贈る臨床業務の在り方 2024/3/10
- ・平田一耕
第4回 JRAPP 薬連携セミナー
自己免疫疾患における薬剤師外来の取り組み
2023/12/11
- ・平田一耕
関東・甲信越地区リウマチの治療とケア教育研修会
関節リウマチにおける免疫薬剤師外来での医療連携
2023/9/10
- ・平田一耕
南房総臨床薬学セミナー
薬剤師視点から見たMTXガイドライン～免疫薬剤師外
来での活動を例に～ 2023/8/24
- ・平田一耕
第6回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Formu
患者に寄り添う共同意思決定への支援～診療所薬剤師
外来の取り組み～ 2023/7/15
- ・平田一耕

南房総臨床薬学セミナー 臨床における生物学的製剤の定性試験の重要性和バイオシミラーの受け入れ要因について 2023/6/29

- ・平田一耕
IBD診療Update 薬剤師から見たIBD患者の薬学管理と服薬指導 2023/3/2
- ・平田一耕
炎症性腸疾患を考える会 薬剤師によるIBD治療薬の情報提供および指導のコツ 2023/2/20

6) 座長

- ・舟越亮寛
医療薬学フォーラム 第31回クリニカルファーマシーシンポジウム 周術期薬剤業務の進め方とアウトカム 2023/7/22
- ・舟越亮寛
日本病院薬剤師会関東ブロック 第53回学術大会 地域包括ケアシステムにおける地域連携・入退院支援 2023/8/26
- ・舟越亮寛
第56回 日本薬剤師会学術大会 分科会N06 薬剤師によるフレイル予防 2023/9/17
- ・舟越亮寛
第33回日本医療薬学会年会 シンポジウム9016、9017 2023/11/3
- ・舟越亮寛
第18回医療の質・安全学会学術集会 診断・検査 2023/11/26
- ・北原加奈之
第8回日本薬学教育学会大会 特色のある卒後教育から未来の薬剤師像を考える 2023/8/19
- ・北原加奈之
南房総臨床薬学セミナー CKDガイドライン2023改定ポイント ～腎性貧血を含む～ 2024/2/15
- ・北原加奈之
南房総臨床薬学セミナー 臨床アウトカム評価とPRO-CTCAE 2023/12/22
- ・渡部和幸
2023年度第2回千葉県精神科専門・認定薬剤師講習会 摂食障害について 2023/10/29

7) その他

- ・北原加奈之
第33回日本医療薬学会年会シンポジウム マネジメントも新時代～学びを若手に贈る業務体制の在り方～ 2023/11/3
- ・北原加奈之
東京都病院薬剤師会 レギュラトリーサイエンス財団公開講座 副作用の臨床推論 2024/2/28
- ・平田一耕
SpA Conference Rheumatologists -PsA編- パネリスト 2023/10/18
- ・平田一耕
第4回East Japan JAK Master Online Conference パネリスト 2023/6/9
- ・平田一耕
Lilly JAK Study Conference in Chiba パネリスト 2023/3/6

【2024年度】

<学術関係発表者>

1) 原著論文・症例報告

- ・湯山 聡、大浦光章、伊勢崎竜也、池田大輔、北原加奈之、舟越亮寛、末永孝生
Successful desensitization to horse antithymocyte globulin for aplastic anemia: two case reports and literature review J Pharm Health Care Sci. 2025 Feb 26;11(1):15.

2) 雑誌関連

- ・舟越亮寛
服薬指導・薬剤情報
医学書院「今日の治療指針」2025年版
- ・川名真理子
新薬くろ～ずあっぷ「レクビオ皮下注300mg シリンジ」
調剤と情報 30.1766-1774(2024)
- ・宇田川雄也、舟越亮寛
新薬くろ～ずあっぷ「レケンビ静注200mg, 500mg」
調剤と情報 30.1892-1898 (2024)
- ・宇田川雄也、船木麻美
"薬剤と理学療法 第3回パーキンソン病治療薬
理学療法ジャーナル 59.347-352 (2025)
- ・川名真理子
基本とコツを押さえたイマドキの緩和ケア「食欲不振、悪液質」
月刊薬事 66.1294-1297 (2024)
- ・川名真理子
基本とコツを押さえたイマドキの緩和ケア「倦怠感」
月刊薬事 66.1298-1299 (2024)
- ・川名真理子
新薬くろ～ずあっぷ「ボイデヤ錠50mg」
調剤と情報、31.702-709 (2025)
- ・寺口 徹、篠川美希、植田健一
周術期の疼痛治療—特集 "何となくで終わらせない薬剤選択 病棟での疼痛マネジメント；悩ましい場面での痛みと薬の使い方
月刊薬事 66.1484-1488 (2024)
- ・船木麻美
先輩薬剤師が臨床5年目までに知っておきたかった病棟薬剤管理ノート「即答できない質問への情報収集はどうする？」
月刊薬事 66.1953-1958 (2024)
- ・田中祐乃介、船木麻美
薬剤と理学療法 第1回鎮痛薬(オピオイド)/硬膜外麻酔薬
理学療法ジャーナル 59.97-101 (2025)
- ・船木麻美
薬剤と理学療法 第2回ステロイド
理学療法ジャーナル 59.227-230 (2025)
- ・阿部誠也
"第2章 回復期リハビリテーション病棟における診療の流れと関連業務 リハビリテーション診療プロセス 23 薬剤管理"、亀田式 回復期リハビリテーション

3) 学会・研究会発表

- ・川名真理子
「緩和医療に携わる薬剤師に求められるものとは」
第17回日本緩和医療薬学会年会 5/24-26
- ・川名真理子
「病院における医薬品情報専門薬剤師の取り組み」

- 第26回日本医薬品情報学会総会・学術集会 6/1-6/2
- ・川名真理子
食欲不振に対する薬物療法および非薬物療法
"日本緩和医療学会第6回関東・甲信越支部学術大会 10/06
 - ・伊勢崎竜也
患者の「今の問題」を解決する 「薬剤師間の問題解決型ケースカンファレンス」の実践
第34回日本医療薬学会年会 11/2-11/4
 - ・森 健太郎
当院薬剤部でのGS1バーコードの利用活用について
第34回日本医療薬学会年会 11/2-11/4
 - ・平田一耕
ヤヌスキナーゼ阻害薬の継続率と安全性の調査～傾向スコアマッチングによる肝代謝型と腎排泄型での比較～
第68回日本リウマチ学会総会・学術集会 4/18-20
 - ・大場啓貴
免疫薬剤師外来における在宅自己注射指導の薬学的管理の調査(第二報)
第68回日本リウマチ学会総会・学術集会 4/18-20
 - ・大場啓貴
急性期病院から在宅療養や療養型病院への移行期に薬剤師が実施した薬学的管理の調査(第一報)
第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 6/7-9
 - ・平田一耕
薬剤師教育の現状と今後の展望、我々は後進をどう育て繋いでいくのか？
第16回日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会 6/8
 - ・森 健太郎
当院の医薬品情報サイト(JUSDI)のアクセスログの利用解析
第26回日本医薬品情報学会総会・学術集会 6/1-2
 - ・富岡奈菜
小児気管支喘息患児における吸入指導評価と喘息発作イベントとの関連性
第7回フレッシュャーズ・カンファランス6/15-16
 - ・田中 慎
「テモゾロミド錠の簡易懸濁にポカリスエットとリンゴジュースを使用した1症例」
第31回クリニカルファーマシーシンポジウム/医療薬学フォーラム2024 07/06～07/07
 - ・飯生詩織
「キシリトール成分非含有のど飴によるアナフィラキシーが疑われた1症例」
第31回クリニカルファーマシーシンポジウム/医療薬学フォーラム2024 07/06～07/07
 - ・島田紀香
「医薬品リスク管理計画の認知度および患者向け資料を用いた服薬指導に関する調査」
第31回クリニカルファーマシーシンポジウム/医療薬学フォーラム2024 07/06～07/07
 - ・澤井陽花
「幼保連携型認定こども園と企業主導型保育所における薬剤管理の比較」
第31回クリニカルファーマシーシンポジウム/医療薬学フォーラム2024 07/06～07/07
 - ・寺口 徹
充実した周術期薬剤業務を目指して一事例集を活用しよう！～タスクシフト・シェアと業務の自動化で周術期医療を充実～
- 第7回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum 07/13～08/12
 - ・木崎悠斗
当センターにおいてアナモレリン初回投与前にチェックリストを用いる事による適正使用調査
日本病院薬剤師会 関東ブロック第54回学術大会 8/10-11
 - ・梅森 琉
メトトレキサート初回投与時のHBV感染スクリーニング検査
日本病院薬剤師会 関東ブロック第54回学術大会 8/10-11
 - ・宮本祐菜
調剤現場での医療安全におけるGS1バーコードの有効性の検討
日本病院薬剤師会 関東ブロック第54回学術大会 8/10-11
 - ・鈴木啓真
フルボキサミン増量によるクロザピン血中濃度の調節が有効であった治療抵抗性統合失調症の一症例
第8回日本精神薬学会総会・学術集会 9/21-22
 - ・阿部誠也
新型コロナウイルス感染症の流行を経て変化した薬剤師の業務
千葉県回復期リハビリテーション連携の会 第12回全県大会 9/28
 - ・湯山 聡
Successful desensitization to horse antithymocyte globulin in two patients with aplastic anemia
第86回日本血液学会学術集会 10/11-13
 - ・北原加奈之
The Usefulness of Multinational Pharmacist Web Conferences Utilizing ZOOM's Automatic Translation Feature
FAPA2024 / The 30th Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress 10/29-11/2
 - ・伊勢崎竜也
Comparison of the Efficacy and Safety of Trastuzumab and Trastuzumab Biosimilars
FAPA2024 / The 30th Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress 10/29-11/2
 - ・日下拓哉
Investigation of the use of the Quick chart to changes in the composition of circulatory injection drugs in the route of administration in the intensive care unit at Kameda Medical Center.
FAPA2024 / The 30th Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress 10/29-11/2
 - ・平田一耕
IL-6阻害薬のトシリズマブとサリルマブの継続率および副作用の発生頻度の調査
第34回日本医療薬学会年会 11/2-4
 - ・岡田拓朗
総合病院におけるアンチ・ドーピングに関する問い合わせの実態調査
第34回日本医療薬学会年会 11/2-4
 - ・大場啓貴
免疫薬剤師外来における在宅自己注射指導の薬学的管理の調査(第三報)
第34回日本医療薬学会年会 11/2-4

- ・森 健太郎
錠剤一包化鑑査支援システムの剤型の違いによる画像認識の認識率の評価
第44回医療情報学連合大会 第25回日本医療情報学会 11/21-24
- ・鈴木義則
注射薬業務におけるPDA（携帯情報端末）ツールを用いたインシデント防止対策と記録の保全について
第19回医療の質・安全学会学術集会 11/29-30
- ・平田一耕
臨床的寛解を達成しながら薬剤師外来で 頸椎の関節炎が発見された一症例
第39回日本臨床リウマチ学会 11/30-12/1
- ・石川康恵
バリシチニブによるCPK上昇に対してアイソザイム測定等で処方方を継続した一例
第39回日本臨床リウマチ学会 11/30-12/1
- ・寺口 徹
周術期の横断的な薬学的管理による医療安全への効果
10年の後ろ向き観察研究
第46回日本手術医学会総会 12/20-21
- ・渡辺マコ
低BMIの非弁膜症性心房細動患者における塞栓症イベントおよび出血イベント発生率の検討
ーワルファリンとエドキサバントシル酸塩の比較ー
第14回日本薬剤師レジデントフォーラム3/1
- ・川田 暁
亀田メディカルセンター施設紹介
第14回日本薬剤師レジデントフォーラム3/1
- ・島田紀香
「医薬品リスク管理計画の認知度および患者向け資料を用いた服薬指導に関する調査」
第39回 会員研究発表会3/8
- ・伊勢崎竜也
カバジタキセルの供給停止に伴い過量充填を考慮した分割調剤で対応した2例
第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 3/15-16
- ・若宮奈央
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫治療中にデクスラゾキサランが血管外漏出を起こした1例の症例報告
第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 3/15-16
- ・井上将貴
関節リウマチ患者におけるがん治療前後の免疫抑制薬の使用状況調査
第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 3/15-16
- ・渡辺マコ
低BMIの非弁膜症性心房細動患者における塞栓症イベントおよび出血イベント発生率の検討
ーワルファリンとエドキサバントシル酸塩の比較ー
日本薬学会第145年会 3/26-29
- ・大類朱莉
内緊急コール時における薬剤師の役割と 参加意義についての調査（第2報）
日本薬学会第145年会 3/26-29
- ・森 健太郎
医療機関における医療用医薬品バーコードの使用状況のアンケート調査結果
日本薬学会第145年会 日本薬学会第145年会 3/26-29

4) その他

- ・寺口 徹
麻酔科薬剤コスト改善チーム導入による請求漏れ削減効果の検証
第45回手術医学会年会 2024/12/20

5) 講師

- ・川名真理子 2025/1/18
一般社団法人大阪府薬剤師会 令和6年度 医療安全・在宅医療推進のための研修会（健康介護まちかど相談薬局研修会）
「がん患者における疼痛以外の症状緩和について」
- ・渡部和幸 2024/12/1
"一般社団法人千葉県病院薬剤師会 2024年度第2回千葉県精神科専門・認定薬剤師講習会"
精神科における薬剤師の介入と多職種連携・タスクシェアの実践～精神科専門薬剤師になるまでとこれからの役割～
- ・船木麻美 2025/2/25
千葉県南部骨粗鬆症WEB講演会
当院における骨粗鬆症チームの取り組み
- ・阿部誠也 2024/9/28
千葉県回復期リハビリテーション連携の会 第12回全県大会
シンポジウム「コロナ禍で失ったもの、学んだこと、そして新たな創造へ」
- ・舟越亮寛 2024/6/22
日本病院薬剤師会東北ブロック第13回学術大会
バイオシミラー普及における薬剤師の役割
- ・舟越亮寛 2024/6/23
"医薬品情報専門薬剤師認定のための生涯教育セミナー（夏コース）"
医薬品適正使用のための安全対策立案能力
- ・舟越亮寛 2024/7/7
第71回北海道薬学大会モーニングレクチャー
医療安全に関して
- ・舟越亮寛 2024/7/13
第7回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum
周術期医療における薬学的介入効果を実証する調査・研究
- ・舟越亮寛 2024/7/24
"レギュラトリーサイエンスエキスパート研修会 総合コース"
"医療機関におけるリスク最小化活動 病院薬剤部におけるリスクコミュニケーションと実際の業務についての紹介"
- ・舟越亮寛 2024/8/16
医療の質・安全学会 医療安全管理者養成研修
組織的な安全対策(4) 医薬品の安全管理/医薬品安全管理責任者との連携
- ・舟越亮寛 2024/9/22
第57回日本薬剤師会学術大会 分科会11
医療DXが目指す未来と薬剤師の役割
- ・舟越亮寛 2024/9/28
第4回認知症予防専門薬剤師教育セミナー
認知症治療薬の最新の役学的知見について
- ・舟越亮寛 2024/11/2
第34回日本医療薬学会年会 メディカルセミナー A
"周術期薬剤業務を開始し医療安全・医薬品適正使用に貢献しよう！～成功施設から学ぶ～"
- ・舟越亮寛 2024/11/8
令和6年度医薬品安全管理責任者等講習会

医療安全対策委員会の取り組みについて～医療安全に関する最近の話題～

- ・舟越亮寛 2024/11/17
第57回東海薬剤師学術大会
特別講演セミナー 医療DXと、連携、地域、過去未来
- ・舟越亮寛 2024/11/30
第19回医療の質・安全学会学術集会
シンポジウム5 どうしてる？休業期間 再開してる？止めた薬
- ・舟越亮寛 2024/12/13
愛媛県薬剤師会 講演会
地域フォーミュラリを実践するにはどうしたら良いのか？
- ・舟越亮寛 2025/2/9
静岡県医師会
第38回静岡県の医療クランクを育てる会
電子処方箋の導入に向けて病院職員が知っておくべきこと
- ・舟越亮寛 2025/2/15
第1回日本医療安全推進学会
医薬品事故後の対応の留意点～院内事故調査委員会外部委員等を経験して～
- ・舟越亮寛 2025/3/18
日本薬剤師会 行政薬剤師部会講演会
医療DXについて(病院薬剤師の立場から)

16 専門・資格 (2026年2月20日現在)

<認定・専門領域薬剤師等>

・がん指導薬剤師	2名	・薬物療法専門薬剤師	3名
・がん専門薬剤師	1名	・臨床栄養代謝専門療養士	1名
・リウマチ財団登録薬剤師	4名	・老年薬学認定薬剤師	1名
・医薬品情報専門薬剤師	4名	・周術期管理チーム薬剤師	7名
・医療経営士3級	5名	・栄養サポートチーム(NST) 専門療法士	12名
・医療情報技師	5名	・医療薬学指導薬剤師	2名
・医療薬学専門薬剤師	6名	・外来がん治療認定薬剤師	1名
・核医学認定薬剤師	9名	・緩和医療暫定指導薬剤師	1名
・漢方・生薬認定薬剤師	1名	・スポーツファーマシスト	4名
・緩和医療専門薬剤師	1名	・骨粗鬆症マネージャー	2名
・緩和薬物療法認定薬剤師	2名	・医療安全管理者	1名
・術後疼痛管理研修	10名	・HIV感染症薬物療法認定薬剤師	1名
・上級医療情報技師	1名	・インфекションコントロールドクター(ICD)	1名
・心不全療養指導士	2名	・緩和薬物療法暫定指導薬剤師	1名
・診療情報管理士	1名	総計	134名
・精神科専門薬剤師	1名		
・精神科薬物療法認定薬剤師	1名		
・精神薬学会認定薬剤師	1名		
・日病薬病院薬学認定薬剤師	30名		
・認定実務実習指導薬剤師	8名		
・薬物療法指導薬剤師	1名		

<BLS, ACLS 資格の取得薬剤師>

- ・BLS 認定者 85名(うち2名BLS インストラクター資格取得者を含む)
- ・ACLS 認定者 67名(うち1名ACLS インストラクター資格取得者を含む)



*** 亀田総合病院 HP - 薬剤部門のご紹介 -**



<https://www.kameda.com/>
https://medical.kameda.com/general/medi_services/index_260.html

*** 薬剤師のインタビュー動画をYouTube 動画でも紹介中！**



https://recruit.kameda.com/interview/medical_technology/pharmacist/01/

*** Instagram 公式アカウント**



<https://www.instagram.com/kameda.yakuzai/?hl=ja>

*** Facebook 公式アカウント**



<https://www.facebook.com/kameda.yakuzai/>

亀田メディカルセンター
〒296-8602 千葉県鴨川市東町929 TEL. 04-7092-2211(代)
2026年3月
発行：医療法人鉄蕉会 薬剤部
発行責任者：舟越亮寛
作成：広報企画室
亀田ホームページ <https://www.kameda.com>